

令和 8 年度釧路市防災会議 開催結果

○日時 令和 8 年 5 月 29 日（金）午前 11 時 00 分～12 時 00 分
○場所 釧路市役所防災庁舎 5 階 会議室 A・B
○出席状況 委員 39 名中、出席 34 名（代理 12 名）、欠席 5 名

1 会長挨拶

2 議題

（1）令和 8 年度 釧路市防災訓練の実施について

→ 承認

（2）令和 8 年度 釧路市地域防災計画等の修正について

→ 承認

（3）質疑応答

①海上保安本部釧路海上保安部 対馬委員

河川の氾濫などの災害が発生した場合、ヘリコプターによる救助が必要であれば要請してほしい。その場合は、事前に情報共有もして頂きたい。

事務局

承知した。

②陸上自衛隊第 27 普通科連隊 高橋委員代理 矢野様

巨大地震が発生した場合の活動拠点について懸念がある。

全国から多くの部隊を投入するが、釧路町の駐屯地だけでは拠点が足りないため、周辺地域の公園等も検討している。東日本大震災では消防や警察等と被ったこともあり、調整が必要である。

事務局

活動拠点を検討し、今後策定予定の受援計画に反映したい。

市内には美原地区の市民球場や湿原の風アリーナなど広い敷地もあるが、多くの支援者を受入れ可能な活動拠点は限られている。

③第一管区海上保安本部釧路航空基地 戸坂委員

避難者で急病が出た場合を想定し、津波避難タワーから医療機関まで、ヘリコプターを使用して避難者を運ぶ訓練を実施したい。ヘリコプターは騒音を発生させるため周辺に迷惑をかけないように調整を行うが、地域住民の方々にはご理解頂きたい。

事務局

承知した。訓練を実施する場合はお声がけ頂きたい。

④釧路赤十字病院 出口委員

大津波警報の避難対象人口が 10 万人弱とのことだが、避難場所の収容人数は足り

ているのか。

また、9月に発令された津波警報では日赤病院にも避難者が来られた。災害時は支援する側ではなく、支援を受ける側になる。受援体制について課題と考えている。

事務局

避難場所の収容人数は、避難対象人口以上を確保している。大津波警報時の避難場所は市内で141か所あり、15万人強を収容可能。

日赤病院付近の避難場所は青葉小学校や共栄中学校になるが、病院にも避難された市民もいたことから、周知不足を感じている。

受援体制も課題と考えており、今後も議論していきたい。

⑤北海道開発局釧路開発建設部 村上委員

昨年度末に日本海溝千島海溝型の大規模地震を想定した北海道道路啓開計画を策定した。道路法が改正され、法定計画として初めて策定したもの。発災後72時間までを想定し、広域進出拠点や活動拠点等、具体的な警戒活動を決めている。この計画の実効性を高めるため、訓練にご協力頂きたい。

事務局

承知した。

3 令和8年度 防災関連情報の共有（防災会議終了後、実施）

- （1）防災気象情報の改善について（釧路地方気象台）
- （2）林野火災注意報等について（消防本部）
- （3）第7回緊急消防援助隊全国合同訓練について（消防本部）
- （4）釧路市避難所マニュアルの改正について（釧路市防災危機管理課）
- （5）防災情報の発信について（釧路市防災危機管理課）

4 会議風景

